

— 特許検索競技大会 特別対談 —

特許検索業務の魅力とは

2014年9月

The logo for IPOC, consisting of the letters 'I', 'P', 'O', and 'C' in a bold, blue, sans-serif font. The letters are closely spaced and have a slight overlap.

特許検索業務の魅力とは



特許検索競技大会2013最優秀賞受賞者

一般財団法人工業所有権協力センター主幹 (検索指導者)

涌井利果 × 秋月美紀子

一言で「特許検索業務」と言っても、その種類は多岐にわたります。

特許検索業務を行うには、技術的な専門知識を有することはもちろんのこと、知財の法的知識や知財を取り巻く動向にも常に注意を払う必要があります。また、顧客との適切なコミュニケーション能力も求められており、経験を積まなければ遂行の難しい業務です。

これら多くの知識、能力が求められるが故の特許検索業務の魅力について、平成25年度に行われた弊財団が主催する「特許検索競技大会2013」の最優秀賞受賞者であり、調査会社で日々特許検索業務に従事する涌井利果氏に、弊財団の主幹(検索指導者)である秋月美紀子がお話を伺いました。

一般財団法人 工業所有権協力センター
企画室 事業推進部

【秋月】まずは、特許検索競技大会での最優秀賞の受賞、本当におめでとうございます。

今日は、特許検索業務の魅力などについて色々お伺いしたいと思います。

2回目の挑戦での受賞ということですが、1回目の経験が生きたということでしょうか？

【涌井】ありがとうございます。1回目の経験が生きた面はあると思います。問題を解く順番を変えたり、時間配分を調整したりしましたし、あと、前回失敗したところを勉強し直すこともできました。

【秋月】時間配分も、事前にずいぶん考えておられたということでしょうか。

【涌井】最初に配点を見て、得点の割合を時間の割合として単純に分けようと決めていました。トータル4時間でちょっと余裕を持たせて計算をして、何時何分までにこの問題をやると決めて、自分を追い立てて、休憩なしでやりました。

【秋月】4時間休憩なしでやられたんですか。思っていた以上に大変なんですね。

(大会参加のきっかけー調査業務での迷い)

【秋月】ところで、特許検索競技大会は何でお知りになったんですか。

【涌井】今の会社に入った時に、この大会があ

ることを聞きました。弊社はフィードバックセミナー会場に近かったので、セミナーには勉強のため毎年参加していました。

【秋月】とりあえずは大会には参加せず、フィードバックセミナーにだけ参加していたんですね。大会へ参加したのは会社からの薦めがあつてということですか。

【涌井】基本的には、自分で参加したくて参加しました。会社からの義務とかではありません。

【秋月】フィードバックセミナーに参加してみて、自分でもやってみたくなったということですか。

【涌井】それが直接の動機ではないですね。当時、調査ですごく迷いを感じていて、それに時間が取られて仕事が進まなかったんです。迷う時間を短くしたい、もうちょっと調査のやり方をクリアにしたいという思いがあつて、大会に参加すれば、自分の解いたやり方とフィードバックセミナーの解答例との比較ができて、勉強になるのではないかと思って参加しました。

【秋月】ご自身のお仕事の中で、何かちょっと抜け出したいようなところがあつたということですね。それで、参加した目的は達成できましたか。

【涌井】そうですね。大会に参加してみて、ここをもっと単純化しないとダメだとか、もう少しここを上手くやらないといけないとか、あまり具体的

ではないですが、足りないと思うところが色々見つかって、それを補足するために他の勉強をしたりしました。

ちょうどその時、INPIT(独立行政法人工業所有権情報・研修館)のエキスパート研修というものがあり、そこに参加して、だんだんクリアになってきた部分がありました。自分でも、まだまだですが、少しは良くなったかなと思います。

【秋月】大会では、4時間という決められた時間の中で答えを出さなければいけないという意味で、迷いを断ち切ることも重要ですね。

【涌井】少し迷いが減ったので、うまく時間をまとめられるようになって来たのだと思います。どこか1つを完璧に解けるようになるというのではなく、全体を解けるようにするにはどうしたらいいか、ここはこういう風に解答したいなという考えが1回目の時よりははっきりしてきたと思います。

【秋月】1回目と2回目の間でグッと進歩したという感じですか。

【涌井】そうだと良いなと思っています。

(受賞後の変化)

【秋月】最優秀賞を受賞されて、何か変化はありましたか？

【涌井】最初は「おめでとうございます」と言われるのがちょっと恥ずかしかったのですが、全く面識のない方からもお祝いを言ってもらって、有り難かったです。また、私は社内では、自分が質問をすることが多かったのですが、逆に質問を受けることも増えました。知らないことが色々あることに気付かされ、自分自身も勉強になっています。今日のように対談の機会をいただいたり、知財情報や一般文献の検索に関する勉強会の方から講師として話をしたいとお話があったり、そういう点では、前とは全く違いますね。お世話になっているお客様から、新しいご担当者の方に「大会で受賞した人だ」とご紹介していただいたことや、「社内でワイゼルへ調査を依頼する理由の説明にもなる」とおっしゃっていただいたこともありました。

【秋月】仕事の依頼が増えたりはしましたか。

【涌井】大会の結果を通じて新しいお客様が弊社の名前を知ってくださり、本社へも調査のお問い合わせが急に増えたとの話を聞いています。

【特許検索競技大会とは】

特許調査能力の客観評価と優秀者及び優秀団体の顕彰等を通して、特許調査に関する技術の普及啓発を促すことにより、我が国のイノベーションの促進に寄与することを目的として開催している大会です。

本大会では特許調査の知識・技能の習得を目指している方を対象としたベーシックコースと、実際に特許調査に関わっている方を対象としたアドバンスコースの2コースを設けており、両コースとも一定レベルの結果を得た方には認定証を交付します。

さらにアドバンスコースでは特に優秀な成績を収めた参加者を表彰する個人表彰と、あらかじめ登録された3人1組の団体の中から優秀な団体を表彰する団体表彰を行います。

昨年度の特許検索競技大会2013は、平成25年10月26日(土)に東京と大阪の2会場で同時開催し、ベーシックコースとアドバンスコースを合わせて201名の方に参加していただきました。



(調査会社での業務内容)

【秋月】普段、会社では具体的にどんなお仕事をされているんですか。

【涌井】今、主に担当させていただいているのは、無効資料調査と侵害調査です。侵害調査はFTO(Freedom to Operate)調査とも呼ばれるもので、事業の実施に問題となる特許がないかを探す調査ですね。その他、技術動向調査もやっています。特許庁の中小企業支援事業関連の先行技術調査も少し担当させていただきました。

【秋月】色々な仕事があるんですね。順番としては、最初は中小企業向けの調査などから初めて、経験を積んでから無効資料調査とか侵害調査をやるようになったという感じでしょうか。

【涌井】私の場合は、実は違っていて、最初にバイオ医薬のグループに配属されたのですが、無効資料調査と侵害調査がとても多い分野でしたので、そこで初めから侵害調査をしていました。もちろん、私自身がメインではなく、先輩方の仕事を見て勉強しながら、補助的な形での調査でしたが。

(サーチノウハウの共有)

【秋月】特許検索競技大会の問題を見たところ、CPC(Cooperative Patent Classification)の設問であるとか、外国調査に関する問題があったのですが、涌井さん自身は外国文献の調査もされるのですか。

【涌井】やっています。

【秋月】IPCCでも、今年度から外国特許文献調査を本格的に開始したのですが、まだ始まったばかりなので、これからノウハウの共有化を進めていかないとなかなかレベルアップしないと思っています。

調査会社でも、個々のサーチャーさんのノウハウというかコツというか、それらの共有化のために何かやっていますか。

【涌井】ちょっと気が付いたコツとか、そういったものを発信できるツールを弊社の中で持っています。ただ、恐らくそれ以上に、それぞれが工夫していることや問題を抱えていることがあるとは思いますが、みんな通常業務がありますので、面と向かって相談する機会を作れないのが実情です。自分自身もなかなか時間が取れなかったりしますし、コミュニケーションと



涌井 利果(わくい りか)

株式会社ワイゼル 上級特許検索アドバイザー
大阪支社勤務
特許検索競技大会2013最優秀賞受賞

いうのは難しいですね。

【秋月】そうですね。仕事に追われてしまうとツールに投稿するのをちょっと後回しにしたり忘れてしまったりとか、そんなこともあるかも知れないですね。でもなかなか面白いシステムですね。

【涌井】ツールが出来てから、自分があまり気付いてなかったこととかも投稿してくれる人がいて、あっ、そういうのがあるんだと気付くことができますので、便利だな、ありがたいなと思っています。

(限られた時間でベストを尽くす)

【秋月】無効資料調査の場合、依頼主は、その特許を潰すために何とか証拠や理由を見つけて欲しいと言って必死だと思のですが、実際なかなかいい文献が出てこないとか、出てきてもバラバラで上手く組み合わせが出来ないこととかがあると思うのですが。

【涌井】ありますね。やはり、有効な先行文献が見つかっていないものが審査をパスして特許になっている訳ですから。でも、一応調査範囲というのは無限大ではなくて、お客様も時間とかコストとか限られた中でやるわけですから、

その中でベストを尽くすようにしています。どうしても無ければ、構成要件だけでも見つけるとか、課題や作用効果が似ているものを洗い出すとか。かなり重要な案件になると、一般文献にまで調査範囲を広げて雑誌を片っ端から見るとか、お客様のご要望と時間の許す限りともかく全部見るということもあります。

【秋月】IPCCの場合、審査官が審査に着手する前の出願について先行技術調査をしているので、引用例が出る可能性はより高いと思います。それでも、なかなかいい文献が出てこなくて本当にそれこそ各構成のパーツを集めてどうしようって悩む場合もあります。

【涌井】そうですね。みなさんやっぱり時間と見る件数も限られた中でやられるわけですから。

【秋月】件数は見だしたらキリがないので、どこかで見切りをつけて無いなら無いなりに、ここまではあるけれどこの一歩が無いというところを示すことができれば良いのかなと思っています。

(検索はお客様のために)

【秋月】調査会社の場合、お客様からいろいろ注文があると思いますが、IPCCでも、特許庁の審査官からの色々な要望にできるだけ沿う形で検索報告書を作成しています。お客様は違いますが、非常に似た構造になっていますね。

【涌井】そうですね。検索業務はやはり調査を必要としている人のために行うものなので、それに合わせた調査をして結果を報告するという立場は共通していると思います。検索自体が目的なのではなくて、調査結果を必要とする人がいて、それで初めて必要とされる仕事なので。

【秋月】一般的に、お客様がサーチャーに求めることって、どんなことでしょうか。

【涌井】その時々でご要望は違いますね。早くやってほしいとか、ここを細かく見て欲しいとか、ご要望に合ったことをそのままあたかもお客様がやっているかのようにやれたら一番良いのかと思います。何が欲しいのかをとり違えてしまうと、せっかくやったことも生かしていただけません。実際十分にできているかどうかは自信がないところがありますが、お客様の要望をきちんとお聞きして、それに応えていきたいと日々思

って仕事をしています。

(他分野の経験が自分野も伸ばす)

【秋月】特許検索競技大会では「マラリア原虫のポリペプチドを有効成分とするマラリアワクチン」というかなり専門性の高い問題が出ましたが、こういう分野は慣れているところだったんですか。

【涌井】いえ、慣れていませんでした。でも、検索競技大会ではインターネットが使えるので助かりました。ともかく問題を読んでもよく分からなかったので、1個1個単語の意味をインターネットで調べてやりました。

【秋月】会社では、技術的なバックグラウンドを重視して分野の担当ができるような体制になっているんですか。

【涌井】基本的にはそうですね。得意な分野を担当した方が効率も良いですし、お客様の要望にも応えられますので。でも、バイオの担当者が化学分野、素材とかポリマー系とかそういった調査をするということは十分にあります。色々な案件、広い範囲に対応できるようにしています。

【秋月】IPCCのサーチャーは、企業で20年と



秋月 美紀子(あきづき みきこ)

一般財団法人工業所有権協力センター
主幹(検索指導者)
元特許庁審査官・審判部部門長

か30年とか研究や開発に従事していた技術者の方で、ずっとその分野をやってきた方が多いので、なるべく専門性のあるところに配属するようにしています。

しかし、出願にも分野間の偏りがありますので、最近はやっと違う分野にも手を広げようという話が出てきています。

【涌井】色んな分野を経験した方が実際にまた自分の分野に戻った時に生きると思います。もちろん最初は全然分からなくて周りの人にご迷惑をかけるかも知れませんが、長い目で見たら損ではないと思います。

【秋月】確かにそうですね。特許庁では、審査官の分担は、結構ドラスティックに変えられることがあるのですが、色んなところを経験することで、新しい分野に替わってもサッとポイントが分かるようになるのだと思います。

(検索業務における喜び)

【秋月】検索業務をやっている、やりがいを感じる瞬間って、どんな時でしょうか。

【涌井】嬉しいのは新しい調査の依頼があった時です。調査をやっている間はやはり苦しいというか、必死ですけど。全部終わってまた「新しい依頼をお願いします」って言うのであれば本当にありがたいな、嬉しいなと思います。

【秋月】お客様に満足していただけた、ちゃんと成果が出てるんだなっていうのが実感できるからということだと思います。私の経験では、なかなかいい文献が出てこなかったのに「あっ！いい引用例を見つけた」とか、そういう瞬間に結構細かいところで喜びを感じていました。

【涌井】そういう時私の場合は、ちょっと自信が無いのかもしれませんが、自分勝手なぬか喜びで、「全然いらぬものを見つけて喜んでしまっていないかな」って思ったりするんです。本当にお客様に喜んでいただけるようなものが見つかったのなら良いのですが…

【秋月】涌井さんは、すごく謙虚なんですね。

(今後のステップアップ)

【秋月】検索のお仕事を始めて7年目で、更に特許検索競技大会で最優秀にもなったわけですが、更にステップアップをしようという目標などがありましたらお聞かせ下さい。

【涌井】基本的には、何がどうというより、毎日

の繰り返しですよ。その中で苦手なところがあればもっと良くして行こうと思っています。例えば自分が慣れていない分野の調査はできないとしたら、その分野もできるようにしていくとか。特許分類を化学だけではなくて他の分野も把握できたらもっと良いのだろうなと思います。やることは沢山あるものの、日々忙殺されてなかなかできませんが。

【秋月】すばらしい心がけですね。先ほどもおっしゃっていましたが、他のことをやることによって本当に自分のテリトリーである化学の分野が更にレベルアップするってということもありますからね。

(特許検索競技大会の改善について)

【秋月】特許検索競技大会の話に戻りますが、実際に大会に参加されてみて、今後大会をもっと良いものにしていくために、改善すべきと思う点はありますか。

【涌井】昨年度から、ベーシックとアドバンスの2つのレベルに分かれましたが、そういうのはとても良いと思います。私は最初、特許検索競技大会という雲の上の人が参加するものだと思っていたんです。今はベーシックもできて、調査を始めて間もない人も試しに受けてみることもできますし、気軽に参加できるような体制が少しずつ整ってきていると思います。

すごく色々な工夫がされていて、あまり改善点は思いつかないのですが、フィードバックセミナーにはせっかく様々な方が集まられるので、終わった後にちょっと交流会のようなことをしたらどうでしょうか。調査員同士で何かコンタクトが取れたら、こういう人も調査しているんだと、少し視野が広がったりするのかなと思います。

(大会参加のすすめ)

【涌井】IPCCさんでは調査をする方が1,500人ぐらいいらっしゃるということですが、私は調査員が20人足らずの小さな会社で働いているので、世の中に調査をやっている方がいっぱいいるという実感があまりないんです。でも大会会場へ行くと、あっ、いっぱいいるんだって実感します。個人的な仕事になるので、黙々とお仕事をされている方も多いと思うのですが、大会に出ることでそういう場を感じたりするの何か経験の1つになるのではないかなと思うので、是非みなさん大会に参加していただき

と思います。私は参加するまでに4年もかかってしまいましたけど、もっと気軽に。

(特許検索業務の魅力)

【秋月】最後の質問になりますが、これから検索業務をやってみようかなと思っている人に対して、こんな魅力があつていいよとか、何か伝えたいことがありましたらお願いします。

【涌井】検索って面白いって言われる方が多いと思うんですね。検索式を入れるとそれにヒットした文献が出てきて、それが探しているものに合致しているかを確認して…という面白味は確かにありますが、私はその調査を必要としている方に合わせた検索をすることが大事だと思います。依頼者の要望にどうやって応えていくか、それには答えがなくて、色んな人がいれば色んなアプローチの仕方があると思うんです。

検索って正解は一つだけではないですよ。もちろん、この分類が重要だなとか、ここは押さえておきたいなといった面はありますが、ではその方法だけが正解か、その他の方法は不正解かというそれは違うと思っています。様々なキーワードを使ってアプローチしたり、見方を変えたり、見る文献の種類を変えたりとか多種多様な方法が考えられて、その中から調査結果を求めている方に合ったものを選んでいくことが大事だと思います。同じような調査をしようとしても違うやり方を求められる依頼者の

方もいるので、要望に合わせていかに自分が変わっていくかという、そういう点でしょうか。

【秋月】相手の求めに応じて、求められるようにどうにでも検索します、という感じですかね。

【涌井】そうですね。時と場合に応じてどうやって行けばいいのか、検索式の組み合わせを変えたり、使うキーワードを選んだり。同じことを同じように依頼されたとしても、人によって全く違うやり方があつたりとかすると思うんですよ。そこはもう尽きないというか、それが面白いかなと思いますね。苦しいですけどね(笑)。

【秋月】苦しいですよ(笑)。やっぱり最終的にクライアントさんが満足していただければすごく嬉しいという感じになるんでしょうね。

【涌井】はい。お客様にとっては、必要な結果が得られることが一番ですので、そのためにはどうしたらよいかを考えて対応するのがサーチャーの仕事なのかなと思います。

【秋月】IPCCも同じですね。我々にとって特許庁の審査官はお客様ですので、要望に沿うようにサーチすることが重要です。

今日は本当にありがとうございました。色々貴重なお話をうかがわせていただいて大変参考になりました。

【涌井】こちらの方こそ色々教えていただいて勉強になりました。ありがとうございました。

(対談日：平成26年7月29日)



一般財団法人 工業所有権協力センター（IPCC）

〒135-0042 東京都江東区木場一丁目2番15号
深川ギャザリア ウエスト3棟

TEL 03-6665-7850

URL <http://www.ipcc.or.jp>